

(科目名) 京滋の在地に学ぶ実践型地域研究			(群)	人文・社会科学系科目群
			(系)	
			(開講期)	前期
(所属部局)	(職名)	(氏名)	(授業形態)	ゼミ
東南アジア研究所	准教授	安藤 和雄	(対象回生)	1 回生
			(対象学生)	全学生
(授業の概要・目的)				
<p>京都府、滋賀県下の農村地域においても、農業離れ、過疎化、高齢化、耕作放棄地の増加、林地の放置などは進み、その影響により、地域に根ざし農村で育まれてきた生活文化や生活技術（伝統芸能、食文化、棚田などの農耕技術、林野利用技術、灌漑水利施設の維持技術）が消滅の危機に瀕している。他方、農村伝統文化を基軸とした地域再生活動が各地域から個別におきつつある。こうした動きに応じて、都市文化の模倣ではない、新たな発想に基づく「伝統文化に基づく地域再生活動」を実践・支援し、大学教育における人材育成を盛り込んだ再生モデルとして一般化し、他の地域にも応用できるような仕組みをつくるのが、地域に根ざした大学としての火急の課題であると考え。このことを実現していく上で、既存のポケットゼミの一つとして、東南アジア研究所の実践型地域研究推進室が取り組んでいる京都府、滋賀県の在り（農村）で協働事業として取り組んできた京滋フィールドステーション事業を中心にその活動の内容に在り地に学ぶ楽しさと必要性を学ぶ。「地（知）の拠点事業」の「まなびよし」授業の一つとして開講する。</p>				
(授業計画と内容)				
<p>東南アジア研究所が亀岡、守山、朽木、南丹市美山町の農村部で、各 NPO、自治会、集落住民との協働で運営しているフィールドステーション事業を中核に展開している実践型地域研究の実際を講義する。講師には、連携・協働者である亀岡市の地元 NPO の一員として活躍している京都大学教員（岩田明久、矢嶋吉司）、京都学園大学教員、保津川遊船スタッフ、プロジェクト保津川メンバー、美山町知井振興会事務局長、美山町佐々里集落区長、滋賀県守山市の NPO 事務局長、守山市美崎自治会会長らに講義を依頼する計画である。受講生はこれらの講義を聞くことにより京都大学では実践を通じて地域から学んでいる生の姿を知ることができる。また受講生を中心に学生有志を募り、有志の課外ボランティア活動として夏と冬の休暇に美山町佐々里集落において参加型農村調査と農村支援活動を、ブータンのシェラブッチェ大学教員・学生らとともに 1 週間程度実施し、国際協働実践を通じて地域に学ぶことも計画している。</p>				
(成績評価の方法・基準)				
レポート				
(履修要件)				
特になし				
(教科書)				
使用しない				
(参考書)				
講義の中必要であれば紹介する				